

【部課名：健康こども部健康づくり課】

事業名		事業目的/概要		総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
健康診査事業		健康に関する正しい知識の普及及び生活習慣病の発症を予防し、生涯にわたり健康的な生活習慣を獲得できるよう動機づけを行うことを目的とする。		指標	総計の現状値	R6実績値	骨粗しょう症検診は、全ての乳がん検診（集団）と同時受診できるようにしたこと、受診率は7.5%（R5 5.6%）に向上した。成人歯科健診は、対象年齢の拡大（20～35歳の5歳節目年齢を追加）と個別通知の強化を図り、受診者数は408人（R5 143人）、受診率は5.2%（R5 2.6%）に向上した。各種健（検）診受診により、自らの健康状態を把握する機会や健康活動の動機づけを行う機会となり、市民のヘルスリテラシーの向上が図れた。	更なる受診率の向上に向けて、検診実施回数の増、検診受診によるインセンティブの付与などを行う。骨粗しょう症検診では、病気の早期発見・早期治療につながるよう検診当日の保健指導を強化する。
総合計画の位置づけ		事業内容：健康診査、骨粗しょう症検診、胃がんリスク検査、肝炎ウイルス検診、成人歯科健診、在宅訪問歯科健診		健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	70.7%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】						
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R5決算額	8,006	6,120				
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R6決算見込額	9,599	6,714				
		R7予算額	11,685	7,943				
事業名		事業目的/概要		総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
健康管理事業		健康に関する正しい知識の普及・啓発を行い、生活習慣病の発症予防及び生涯にわたって実践できる健康的な生活習慣の獲得により、市民のヘルスリテラシーを高め、健康寿命の延伸及び生活の質（QOL）の向上につなげることを目的とする。		指標	総計の現状値	R6実績値	栄養や運動の講座、おでかけ保健室などに加え、新たに開始した健康ラボや、乳幼児健診時の親子を対象にした健康チェックなど様々な場で、健康状態の見える化を推進した結果、健康チェック実施者数は5,499件（R5 4,115人）に増加した。また、がん・生活習慣病予防に加え、免疫力向上や姿勢・呼吸改善など未病予防対策も盛り込んだ健康教育を実施し、多様な学びの場を提供することができた。	子育て世代、働く世代は、次世代への健康影響が大きい反面、健康づくりに取り組めていない割合が他の世代に比べて多いことが課題であるため、親子で参加できる内容や土日開催の事業を増やす取り組みを行う。さらに、健康教育や健康相談の内容充実を図るため、薬剤師や歯科衛生士などの専門職の導入を行い、市民のヘルスリテラシーの向上につなげる。
総合計画の位置づけ				健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	70.7%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】		健康チェック実施者数	4,115件	5,499件		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R5決算額	1,654	1,221				
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R6決算見込額	8,829	8,176				
		R7予算額	2,656	1,965				
事業名		事業目的/概要		総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
食育推進事業		食の体験活動を通して食への興味や関心を高めるとともに、食の知識を身につけることで健康的な食生活を実践し、健康な身体づくりをはじめ、健康づくりにつなげることを目的に、親子での体験活動やライフステージに応じた食育講座、野菜摂取量増加に向けた環境づくり、正しい知識の啓発、食のボランティア育成などを実施。		指標	総計の現状値	R6実績値	ベジチェック（推定野菜摂取量測定器）を活用した食生活の見える化実施者数は、イベントなどで実施し啓発を行うことで3,249人（R5 2,247人）に増加した。また、市内飲食事業者で登録している野菜たっぷりメニューの周知など、野菜摂取増加につながる環境づくりにも取り組んだ。また、体験活動では農業体験やみそ作り、料理教室など食の体験活動を通して、食や健康づくりへの関心を高めることができた。	ベジチェック平均測定値がほぼ横ばいであるため、平均値の上昇と更なる測定者数の増加をめざし、セルフチェックができるコーナーを保健センターに設置するとともに、野菜たっぷりメニューの推進や広報紙等を活用した啓発などに取り組んでいく。
総合計画の位置づけ				健康を意識した食事を心がけている市民の割合	73.3%	77.6%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】		ベジチェック平均測定値	5.3	5.2		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R5決算額	738	655				
個別目標の方向性	ライフコースアプローチを見据えた食育の推進に取り組みます	R6決算見込額	1,246	710				
		R7予算額	877	443				

事業名		事業目的/概要			総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
あしゆびプロジェクト事業（健康づくり課）		あしゆびから健康な身体づくりをめざし、全身を支える土台である足機能の重要性を周知するため、足を正しい状態に整え、正しい姿勢と動作で健康な身体を維持できるよう、足の状態の可視化や健康教育、リーフレットによる啓発するとともに、評価指標に基づく事業評価を実施し、令和7年度は取り組みを全国に向けて発信していく。			指標	総計の現状値	R6実績値	これまで取り組んできたあしゆび力測定（R6 2,471人）やセミナーの開催、リーフレットによる周知活動に加え、プロジェクトの事業評価に取り組み、プロモーション動画の作成など、令和7年度の大阪・関西万博において全国に発信できるよう取り組みを行った。 また、運動習慣の少ない青壮年期がセルフトレーニングに取り組めるよう、トレーニング動画を作成し、市ホームページに掲載した。	より多くの人にあしゆびを意識した活動に取り組んでもらえるよう、プロジェクトの評価指標に基づき、あしゆび測定の実施やセルフトレーニングの推進、リーフレット配布による周知活動に取り組み。また、引き続き取り組みの評価を行っていく。
総合計画の位置づけ					健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	70.7%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】			健康チェック実施者数	4,115件	5,499件		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R5決算額	15,778	0					
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R6決算見込額	22,525	0					
		R7予算額	2,101	0					
事業名		事業目的/概要			総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
アピアランスサポート事業		がん患者の療養生活に対する質の向上、がん治療と社会参加の両立及び経済的負担の軽減を図る。 がんの治療に伴う外見上の変化により、社会参加への不安や悩みを持つがん患者の方に医療用ウィッグ及び乳房補正具の購入費用を助成する（購入費用の1/2・上限額2万円）。			指標	総計の現状値	R6実績値	アピアランスサポート事業として、医療用ウィッグ21件、乳房補正具2件、計23件の助成を行った。助成対象者へのアンケート結果では、経済的負担の軽減につながったという回答が最も多く、外出機会が増えた等の意見も聞かれたことから、がん治療と社会参画の両立及び経済的負担の軽減を図ることができた。	ウィッグや乳房補正具は、高額であり、また生涯1回限りの助成であるため、助成金額の見直しを行い、経済的負担の軽減を図る。また、治療や副作用についての情報提供を希望される声もあるため、治療や身体の変化、セルフケア方法などの情報について周知啓発を行う。
総合計画の位置づけ					健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	70.7%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】							
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R5決算額	179	0					
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R6決算見込額	437	0					
		R7予算額	600	0					
事業名		事業目的/概要			総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
健康力向上プロジェクト事業		未病予防対策先進都市をめざし、健康課題の解決に向けた実証実験や、病気になる前の段階からの健康づくりに取り組み、ヘルスリテラシーや生活の質（QOL）の向上につなげていくことを目的とし、健康サポートアプリを活用した健康づくり活動や未病予防対策など、多様な健康づくりの取り組みを官民連携・市民共創で実践していく。			指標	総計の現状値	R6実績値	健康サポートアプリ（アスマイル）の登録者は4,654人（R4 2,912人、R5 4,013人）と増加。対象市民の7.46%を占め、目標の7.5%を概ね達成した。 健康力向上プロジェクト補助金事業（女性の健康課題改善のための事業）では、多様な健康づくりメニューを官民連携、市民共創の実証実験で取り組み、市民が主体的に健康づくりに取り組むことで、参加者の63.2%が更年期の不定愁訴が改善し、95%以上が健康意識の向上や行動変容が図れた。また、未病予防対策の気運醸成に繋げることができた。	健康力向上プロジェクトは、令和4年度から3年間、官民連携・市民共創で実証実験に取り組んできたが、今後は、得られた結果をもとに、ヘルスリテラシーの向上や未病予防に資するメニューを事業化し、未病予防対策先進都市をめざした新たな取り組みを推進していく。
総合計画の位置づけ					健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	70.7%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】			健康チェック実施者数	4,115件	5,499件		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R5決算額	26,079	12,894					
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R6決算見込額	23,709	21,285					
		R7予算額	23,784	22,324					

事業名		事業目的/概要			総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み			
新型コロナワクチン副反応等対策事業		新型コロナワクチンの副反応や新型コロナウイルス感染症の後遺症などで悩まれている方の不安や、身体的・経済的負担の軽減を目的とし、相談及び症状を軽減するための支援等を実施するとともに、新型コロナワクチンによる副反応により健康被害を受けた方に、医療費などを支援金として支給する。			指標	総計の現状値	R6実績値	相談事業として、令和6年度は、オンライン相談に加え、医師に対面で相談できる体制整備を行った。また、長引く後遺症を改善するためのプログラムに22人が参加し、症状の軽減、改善が図れた。コロナ感染症やワクチンについての情報提供にあたり、シンポジウムを開催した。222人が参加し、情報のアップデートやヘルスリテラシーの向上が図れた。また、健康被害支援金では、2人に支給を行い、身体的、経済的負担の軽減が図れた。	令和3年度から新型コロナウイルス感染症の後遺症やワクチン副反応等に対する支援を行う中で、多くの方は多様で複合化した症状が長く続く未病状態であることがわかってきた。今後は新型コロナウイルス感染症に関わる症状の方に限らず、対象者を未病状態にある方に拡大し、市民が主体的に未病予防対策に取り組み、ヘルスリテラシーの向上が図れる環境づくりに取り組む。			
総合計画の位置づけ					健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	70.7%					
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち											
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	事業費（うち市負担額）【千円】										
		R5決算額	19,799	7,099								
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R6決算見込額	22,155	149								
		R7予算額	21,802	1,147								